

会報

NPO・日本抜刀道連盟

事務局
〒220-0011
川崎市幸区中華町一丁目二七
電話 〇四四一七五五八〇
FAX 〇四四一七三三二七五
Eメール

第二十一回

日本抜刀道連盟全国大会 団体戦は川崎支部に栄冠

十月十四日(日曜)、NPO・日本抜刀道連盟(以下連盟とする)第二十一回全国大会が、茨城県鹿嶋市の鹿嶋神武殿(財団法人・中村鶴治理事長)で開催された。
今年には三十二支部が参加し、参加選手は女子と外国人選手を含めて一四四人となった。中には大会参加のために遠くローマ支部から来日したパロンピ・マウリッチョ選手もいた。



開会式

午前九時全国集合、まず去る九月二十八日に逝去された香風旭館長・範士八段の顕彰旅行先生のご冥福を祈り黙祷がささげられた。その後中世古語副会長の開会宣言、国旗礼拝と君が代斉唱、優勝旗返還、昨年団体優勝した英信館支部の田丸詩織選手が力強く選手宣誓をした。



上 団体優勝した川崎Bチーム
下 藤田幸雄副議長議員をから三人
目と役員

来賓

大会名誉会長の岡田広・参議院議員が公務で出席できないため代理の秘書・郡司直人氏が出席された。

また、今回は藤田幸久参議院議員も出席され「学校でも武道を必須にするなか、伝統ある剣の道を継承される皆様の益々のご発展を期待します」と挨拶された。

日本綜合武道同武館総本部館長・下田栄心先生も最後まで参列された。

会長挨拶

そのあと大江正男・大会会長は、「抜刀道は日本武道の歴史と伝統であり、私たちは先人達の遺志をついで、新たなことに優心せず立派な試合をしてほしい」と挨拶された。

審判長注意

中島正夫・大会審判長(教務部長)は「一年間の成果を發揮し、任我のないように大会を成功させてほしい」と大会進行に当たって注意があった。

募払い

一旦会場を整えたあと、川崎支部の松井弘・教士八段が募払い、続いて視察演武となった。

制定刀法形演武

事務局長・青野茂教士七段
組太刀演武

打太刀 川崎支部・大塚光男教士六段

仕太刀 忠勇会・松浦信成五段
この真剣を使った組太刀は昨年の

団体優勝は川崎Bチームに栄冠

決勝戦は川崎V S 鎌倉

決勝戦は毎年大会のハイライトだが、今年も三十三チームが参加した。A、B、二チームの参加も多かったが中には三チーム参加の支部もあった。団体戦への意気込みがうかがえる。

またどのチームも先鋒、中堅、大将ともに力強く技を競い、見て大会で始めて披露されたが、まだ日頃の練習に取り入れている支部は少ない。

試合会場を四ヶ所に

従来は三ヶ所で試合をおこなっていたが、大会終了時間が遅くなる、連方に帰る選手の大きな負担となっていた。そこで今年から会場を増やして進行を早める試みが実施された。

さらに各会場とも赤白同時に演武することになった。こうした新しい工夫もあり、今年の大会は順調に進み、四時四十分には表彰、閉会式も終わった。

少年剣士が三連覇達成

二十三号で当時十一歳の少年山上天世君(香風館)が形の部で優勝したことを報じたが、山上君は昨年優勝し、今年も級・初段形の部で優勝した。

これで三連覇となった。三年前の初優勝のときの山上君は小さな小学生だったが、今では身長も一七五センチと成長した。

いても赤白の優劣がつけがたい試合も多かった。決勝は川崎Bと鎌倉Aの戦いとなったが、惜しくも鎌倉にミスがでて川崎Bの優勝が決まった。三連覇を狙っていた英信館は優勝出来なかった。

山上君は父親に進められて居台と抜刀を始めたが毎週二日は稽古をしているようだ。

ローマから大会のため来日

海外支部はフランス、イタリア、二カ所、台湾と西カ所の支部があるが、今年ローマから大会出場のため来日した選手がいた。パロンピ・マウリッチョさん(六五歳)で、一週間ほど前に来日し武山会(支部長・山中伴(範士八段))で特訓していたという。マウリッチョさんは形四段の部で三位入賞をばたした。



パロンピ・マウリッチョさん
と山上天世君

高段者審査会

今年の高段者審査会は、例年どおり大会前日の十三日(土)に行われたが、八段一名、七段三名、六段五名の計九名が審査を受け、このうち五名が合格した。

巻き藁六日本

毎年大会ではごく当たりまえに用意された藁を使用しているが、実はこの藁は六日本にもなる。この藁を毎年用意して下さるのは、洗心館支部の太田丈夫先生、水戸支部の森山進先生、剣誠会の藤田久明先生とその各支部の皆さん方である。

「藁しを伺うと、藁六日本となるとおおよそ二週間ばかりかかると言っ、しかも先に漬けた藁は乾かないよ



上 用意された藁の一部
下 ビニールで包んで保管

うに二、三メートルシートで包み、出来るだけ平場の柔らかさを保つよう努力しているそうだ。

また当日も早朝から藁を会場に運び込んでいる。藁を台にさしたり、斬りくずを片付けているのは地元の剣道関係者のアルバイトの方々である。

大会成功の裏方の努力を忘れてはなるまい。

お知らせ

現在の高段者は
八段-13名
七段-24名
六段-15名
となつて居ります
各自、錬磨し
昇段を目指して
下さい。
審判部

○二十五年度高段者審査会は十月六日(土)
○全国大会は十月七日(日)に決まりました

心に残る茶 心を磨く

(第五回) 特別寄稿 抜刀道連盟副会長 中世古藤司

「二十、三十、四十、五十にして学に志し、六十にして立ち、七十にして感わず、八十にして天命を知る、六十にして耳順う、七十にして心の欲する所に従つて矩をこえず。」

「一、初心不可忘(初心忘るべからず)」

(意) いまでは、「何事も思い立った時の初心を忘れないように」と解釈されているようですが、世阿弥の真意は、「初心の未熟さ、いたらなさを忘れないように」にあったようです。

能の伝書「花鏡」より、「世阿弥」

「二、一期一会(いちいちいもえ)」

(意) 「生涯の間に一度だけ会うということ、茶会では何度同じ客を招いても毎回、「一生に一度の」と上と思つて真心を尽くすことです。」

「千利休」の弟子山上宗二の説いた言葉

第 21 回 日本抜刀道連盟・全国大会 入賞者

	段位別	優勝	準優勝	三位
形個人	初段以下	山上大世 春風館	下河部朗 葵心会	富川仁 春風館 高松泰司 静岡
	二・三段	北郷大輔 剣誠会	三宅康司 讃岐	藤田英香 英樹館 成田英右 東京英樹会
	四・五段	境恭雅 高知	古田忍 讃岐	パロンロ マウリツチエ イタリア 濱田実明 高知
実技個人	初段以下	城和広貴 高武館	高松泰司 静岡	吉原安夫 島根抜刀道 富川仁 春風館
	二・三段	谷部昭 武蔵会	横山慎平 鎌倉	北郷大輔 剣誠会 クラブ スタング 春風館
	四・五段	井上康司 志保館	古田忍 讃岐	木村義仁 武山会 岡村美 鎌倉
団体戦	支部名	川崎支部 B	鎌倉支部 A	大阪支部 A 飛燕会
	先鋒	詫摩哲彦	本多浩	富川康司 山田恭輝
	中堅	佐藤敏子	横山慎平	日高龍治 高木英樹
	大将	小林勇起雄	岡村美	長瀬卓治 野中善克彦

訃報

栃木県・春風館館長で範士八段の館野敏行先生が、病のため去る九月二十八日に逝去されました。訃んでご冥福をお祈り申し上げます。